

ほんからかわらばん

第7号
発行 2015年11月23日
九州教区
東日本大震災対策小委員会



「つながる力」で

長期の取り組みを

福岡城東橋教会 鈴木恵さん

「砂場って、あつたかいんですね。」つぶやくように言われた一言が忘れられません。

2012年の夏、苫小牧市で実施された保養プログラムに、スタッフ

として参加した時のことです。被災地の子どもたち、特に未就学児の親子を対象にした保養プログラムで、

20数名を約一週間お迎えするとう、市民による手作りの企画でした。

初日に、晴天の公園で遊ぶ時間がありました。幼い子どもたちに、久しぶりに砂遊びをさせてあげられて嬉しかったと、最終日に笑顔で話していたお母さんが、「砂場って、あつたかいんですね。忘れていました。」と言われたのです。少しの沈

黙の後、目に涙がいつぱいになり、

「いつまで続くんでしょうか」と、それまでの笑顔では語られなかった苦労や不安を語って下さいました。

放射能被爆から子どもを守りたい、でも事情があつて避難できないこと。外遊びはできず、遠くまで食

材を車で買いに行く生活を続けながら、何もなかったように暮らそうとする人々の中で孤立し、孤独だったこと。不安や焦りの中でついイライラして、こどもに優しくできない

自分を責めていたこと。ここでたくさん仲間に出会えてホッとしたこと。お話を聴きながら、ただ一緒に泣くことしかできない私は、無力

でした。

その出会いがきっかけとなり、被災地支援のためのバザーをしたり、放射能や原発について地区でこどもたちと学んだりするようになって

たのですが、正直に告白すると、その熱意は一時的なものでした。翌年にも同じ企画に部分的に参加しましたが、出産や転居など日常に追われる中で、いつの間にか自分のことで精一杯になってしまったのだと思います。

九州教区へ来て、初めてこの「ほんさいかわらばん」を読んだ時、衝撃を受けました。記事は、保養プログラムで九州に招かれた後藤絆奈さんからのお礼のお手紙でした。そこには、2年前に出会った親子と同じ悩み、苦しみが語られていたのです。被災地の状況は変わっていない、むしろ深刻になっていることを知り

「できることは何か」と悶々としていた時、震災対策小委員会で保養プログラムを計画していることを聞き、支援献金のために手作りおもちゃの販売を企画しました。こどもの教会の保護者に呼びかけ、主旨に賛同してくれた14名と一緒に製作、教会バザーで販売することができました。小さな取り組みですが、被災地の現状に思いを寄せ、語り合うひと時も与えられ、新たな交わりが生まれたことを感謝しています。

小さなことを少しずつ続けたい。一人では難しいことも、教会・教区の交わりの中に希望があります。私たちの間にある「つながる力」を信じて、保養プログラムという長期に亘る取り組みを支えていきたいと思えます。



支援募金のお願い

◆この度、東北教区放射能問題支援対策室いずみと協力し、東北の親子約20名をお招きして短期保養プログラムを実施することとなりました。

日時：2016年3月28日(月)～4月1日(金) 場所：奄美

◆プログラム実施のための経費は概算で200万円以上と見込まれ、その一部を九州教区の支援募金から支出することになります。これまで同様、募金に是非ご協力いただきたく、お願いをいたします。

◆保養プログラムは、長期にわたって必要とされているプログラムです。九州教区内でも、息長く続けていきたいと願っています。どうぞ、続けてお祈りください。

ボランティア報告

エマオでの活動を終えて

川畑千恵美さん(大分教会)

九州教区と教会の皆さんのお支えを頂いて、被災者支援センターエマオの活動に参加する機会を与えられたことを感謝します。細やかに配慮しつつボランティア計画をしてくださるスタッフの働きに心から感謝すると同時に、果たして私は何の役に立ったのだろうかという思いが残ります。けれども「被災地を訪れ、自分の目で見てほしい。」と何度も聞いていた意味が理解できたとような気がします。

最も被災の大きかった石巻市は、

町全体を高台に移す計画がされ、山を切り開いての宅地開発や、盛り土のために多くのダンプカーが走り回っていました。確かに、高台には新築住宅が建ち並び、主要産業である漁港は、震災前よりも規模を大きくして立派に再建されていました。中心部には震災後に建てられたモダンな建物も多くありました。けれども、被災地を離れた今、思い出されるのは何も手がつけられていない景色ばかりです。途中、千戸近くの世帯が暮らしていたと案内された場所は、一面、雑草が生え、その下から住宅の基礎部分だけが見えておりました。暑さの中でその雑草すら枯れ焼け、そこだけ時間が止まり、

季節や色を失ったような印象で思われます。また、高台の仮設住宅には、震災前は沿岸部で生活していたご高齢の方々が暮らしていました。仮設入居後、自分の意思で高台を下りたことが無いと言われる方もおられました。何の目的もなく下りていく気がしないとのことでした。誰もが、生きている間に町へ下りる日が来るだろうかと思っておられるそうです。色の無い景色と同様に、そこだけぼっかり別空間のように思い出されます。主要産業からの再生が進む中で置き去りにされた心があることに傷みを覚えま

す。ちょうど、石巻市を訪ねたのは8

日もたちの生活が一瞬にして止まってしまったことが残念で、悔やまれました。悲しい出来事をたどる中、中学生が立ちあげた「命の石碑プロジェクト」の働きにも出会いました。各地に石碑を建て、合い言葉を刻み、千

場所…徳之島伝道所
講師…布田秀治さん(東北教区放射能問題支援対策室) 委員長、いずみ愛泉教会
◆被災教区への直接支援を今年度も、次のように行います。奥羽教区の諸教会へ40万円。東北教区被災者支援センターエマオのスタッフ研修へ20万円。東北教区放射能問題支援対策室いずみへ10万円。会津放射能情報センターへ10万円。
◆今年度、これまでお寄せいただいた支援献金は、177,815円、現在の残高は、2,731,406円です。ご協力に感謝いたします。なお、表面に記しましたように、来年3月に保養プログラムを実施する予定ですので、今年度は前年度と比べて支出増大の見込みです。どうぞ覚えて募金にご協力くださいませう、重ねてお願いいたします。
◆親子でゆっくりと過ごしていた

支援活動かろう

◆九州教区 東日本大震災報告集会を奄美地区2015年信徒修養会との合同で実施します。
日時…11月23日(月・休)
午前10時〜午後2時30分

月11日で、震災から4年5カ月を刻む日でした。大川小学校の墓碑には、月命日を覚えて花を携えた家族や、友人らしい学生さんが集っておられました。校庭には「雨にも負けず、風にも負けず」「世界中の人たちの平和が実現しない間は個人の平和もない」と力強い文字が書かれた壁画が、半壊しながらも色鮮やかに残っていました。平和を願う子

◆親子でゆっくりと過ごしていた
◆長期滞在型の保養の検討を継続しています。そのための場所としてお借りできる空き家などの情報がありましたら、お寄せください。

第7次ボランティア募集

被災地のニーズは多様化し、幅広い経験をもった方々が求められています。

派遣先：東北教区被災者支援センター(仙台市)

派遣期間：各自でお決め下さい。

ただし 3日以上ワーク可能な方

派遣補助：教区より一人5万円

作業内容：外ワーク、仮設住宅での活動、こどもプログラム、夕食ボランティア等

お問合せ：委員長 新堀真之

(香椎教会 092-661-3419)

詳しくは募集要項をご覧ください。



かつてがれきに覆われていた田畑が回復